

市勢のあらまし



佐 世 保 市 章 (明治44年10月20日制定)

九州の西端、長崎県の北西部に位置する佐世保市は、明治初期までは大村湾口よりさらに深奥の村にすぎなかったが、明治19年(1886年)海軍鎮守府の設置が決定してから急速に都市化が進み、明治35年(1902年)4月、村から一足とびに市へ昇格した。

以来、軍港の拡充に伴い市勢も発展したが、明治の建設期には電灯、水道布設、町名制実施などに幾多の問題があり、激増する学童のための学校建設は市政の最大の問題であった。

大正時代は、佐世保市政の整備期ともいべきときで、ようやく産業都市としての発展策が立てられ、各種の産業施設や会社、工場などの設立が盛んになり、まさに発展期にふさわしく市政多忙の時代であった。

昭和時代に入るや国家のすう勢のままに市勢の規模も大きくなり、軍港都市として躍進し、昭和17年当時には142.8k㎡の市域と26万6千人余の人口を数えるに至った。しかし、昭和20年6月の空襲で市内中核部の約1万2千戸を焼失し、さらに2カ月後の終戦時には30万を越すといわれた人口も14万余に半減した。

終戦直後の市政は、占領軍の軍政下において行われ、民主主義体制のもとに新しい自治体への道を急ぎ、平和産業港湾都市への転換を図った。

21世紀の発展基盤を築き、さらなる躍進を期すとともに、魅力あふれる西九州の中核都市をとって、交通体系及び都市機能・都市環境の整備を進めながら、ひと・まち育む“キラっ都”佐世保 ～自然とともに市民の元気で輝くまち～の実現に取り組んでいる。

位置

東経 129° 42' 55"	北緯 33° 10' 48"
-----------------	----------------

面積・世帯数・推計人口 (令和6年5月1日現在)

面積	世帯数	人口			人口密度
		男	女	計	
k㎡					人/k㎡
426.01	103,082	109,739	121,651	231,390	543.2

市域の変遷

編入年月日	編入町村名	累計面積
		k㎡
明 35. 4. 1	旧佐世保市(市制施行)	17.82
37. 3. 31	庵浦免の一部を北松浦郡山口村へ分割	16.92
37. 4. 1	日宇村の一部編入	17.92
昭 2. 4. 1	佐世村、日宇村編入	52.03
13. 4. 1	相浦町編入	87.58
17. 5. 27	早岐町、大野町、中里村、皆瀬村編入	139.24
29. 4. 1	柚木村、黒島村編入	172.66
30. 4. 1	折尾瀬村、江上村、崎針尾村編入	233.34
33. 8. 1	宮村編入	249.00
63. 8. 19	公有水面埋立てによる面積増	250.47
63.10. 1	国土地理院・実測	248.15
平元. 3. 24	公有水面埋立てによる面積増	248.16
5. 1. 18	〃	248.24
5. 6. 1	佐々町との境界修正による面積減	248.23
6. 1. 25	公有水面埋立てによる面積増	248.24
8. 7. 30	〃	248.28
9. 1. 17	〃	248.29
11. 3. 5	〃	248.30
12. 1. 14	〃	248.32
17. 4. 1	吉井町、世知原町編入合併	307.54
18. 3. 31	宇久町、小佐々町編入合併	363.94
18. 6. 20	公有水面埋立てによる面積増	364.00
20.10.10	〃	364.03
21. 1. 16	〃	364.04
22. 3. 31	江迎町、鹿町町編入合併	426.41
22. 7. 16	公有水面埋立てによる面積増	426.47
22.10.19	〃	426.49
23. 5. 20	〃	426.49
24. 1. 10	〃	426.50
24. 4. 5	〃	426.58
24.10. 3	〃	426.58
24.12.21	〃	426.59
25. 3. 28	〃	426.59
26.10. 1	国土地理院・実測	426.06
令 2. 1. 1	〃	426.01